

平成28年度行政評価シート【個表】

平成 28 年 6 月 23 日

評価対象事業		評価者	青少年課長		瀬谷 公重
こども-24 子ども会館・子どもの家管理運営事業		■ 自治事務	主管課	青少年課	
		□ 法定受託事務	関連課	こどもみらい課	
総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	すべての子育て家庭への支援	

1 事業の目的

対象	市内に居住する乳幼児・小中学生等
意図	子どもに健全な遊び場を与え、心身の健やかな育成を図るほか、居宅内労働等を含む就労等において保護者が昼間家庭にいない児童に対して、家庭的な支援を行うため。
効果	心身ともに健やかな成長を図る。

2 平成27年度に実施した事業の概要

・各小中学校区に子どもの家を設置し、支援員のもと学童保育を行うとともに、子どもの家に併設又は単独で設置する子ども会館により、地域の乳幼児・小中学生に遊びの場を提供した。
・梶原子ども会館の運営を子育て支援団体とともに行った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	26年度決算	27年度決算	データ区分	28年度当初予算	備 考
人 口	177,464人	177,243人	人 口	176,869人	・各年3月31日 (住民基本台帳) ・事業の対象者 0歳～15歳
世 帯 数	80,368世帯	80,676世帯	世 帯 数	80,928世帯	
事業の対象者数	22,968人	22,875人	事業の対象者数	22,748人	
決算値(千円)	229,219	287,596	当初予算(千円)	430,325	
国県支出金	43,938	97,435	国県支出金	112,340	
地方債			地方債		
その他	57,064	62,504	その他	69,989	
一般財源	128,217	127,657	一般財源	247,996	
人員配置数	2.2	2.9	人員配置数	3.0	
人件費(千円)	17,507	23,714	人件費(千円)	24,632	
総事業費(千円)	246,726	311,310	総事業費(千円)	454,957	
市民1人当りの経費(円)	1,390	1,756	市民1人当りの経費(円)	2,572	
対象者1人当りの経費(円)	10,742	13,609	対象者1人当りの経費(円)	20,000	

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	4. 市民生活に寄与するが、担い手として、国・県・民間等での実施も可能
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○. 負担導入済 ○-1. 既に受益者負担を求めているが、今後、その額や対象等を再検討する必要がある
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○. 協働実施済 ○-1. 既に市民等と協働して事業を実施しているが、協働のあり方等の見直しが必要である
		協働実施済の場合のパートナー かまくら子育て支援グループ懇談会
事業内容の方向性	☒ a: 事業内容を見直す → ☐ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	見直しの種類 ☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他
		見直しの内容 ・学童保育のニーズ量を確保するため、子どもの家の増床等を行ったことにより、施設の大規模化が進んでいる。安定した運営のため、職員の増員が必要であり、派遣を活用した。 ・協働事業を実施している梶原子ども会館で、指定管理者制度を導入するため、事業者の選定を行う。
予算規模の方向性	☒ A: 予算規模を拡大する ☐ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 学童保育のニーズ量を確保するためには、子どもの家の増床等が必要である。これにより、施設の大規模化が進んでおり、安定した運営を図るには、職員の増員、トイレ等の施設環境の整備や施設物品の増が必要である。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	学童保育のニーズ量を確保するため、子どもの家の増床等により、利用定員を増員した。職員の増員が必要であり、不足分については、派遣を活用して、安定した施設運営を図った。新たな事業展開として、協働事業を実施している梶原子ども会館で、指定管理者制度を導入する。	

平成27年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	・こども専任支援員等の処遇を改善する必要がある。 ・子どもの家の整備に応じた職員のさらなる確保が課題であるとともに、民間事業者の学童保育参入についても検討していく必要がある。 ・協働事業を実施している梶原子ども会館の平成28年度以降の方向性を明確にする必要がある。		
課題解決のために行った平成27年度の取組	・こども専任支援員等の処遇を改善した。 ・梶原子ども会館の運営を子育て支援団体と実施するとともに、平成28年10月の指定管理者制度導入のため、事業者を募集し、選定委員会を開催した。		☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	・待機児童の解消を図るためには、利用定員の増員が必要であるが、職員の安定的な確保及び施設の増床には限界があるため、民間事業者の活用や放課後子ども総合プランの実施を視野に入れた検討が必要である。 ・子どもの家について、安定した運営を行うためには、公設公営から指定管理への転換についても検討が必要である。		

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方									
----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	子どもの家のニーズ量を確保する。					単位	人	指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
平成27年3月に策定した「子ども・子育て支援事業計画」では学童保育(子どもの家)のニーズ量の見込みに対して、平成31年度まで確保することを目標としているため。	目標値	—	1,691	1,673	1,686	1,666		1,666		
	実績値	1,355	1,649							
	達成率		97.5%							

指標の内容	子どもの家の職員を確保する。					単位	人	指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
子ども・子育て支援新制度で学童保育に従事する職員の配置人数が義務付けられたことを受け、子どもの家の施設整備に併せ、子どもの家の職員を確保する必要があるため。	目標値	121	148	162	175	189		191		
	実績値	121	151							
	達成率	100.0%	102.0%							

指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	民間事業者による学童保育の参入を積極的に進めることで、学童保育のニーズ量を確保する。また、子ども・子育て支援新制度では、子どもの家の職員の配置人数が義務付けられたことから、子どもの家の施設整備に併せて職員の確保が必要である。なお、運営方法の見直しに伴い、放課後子ども総合プランや指定管理者制度を導入した場合は、子どもの家の職員の目標値は減少することになる。									
-----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

● 事業に関する特記事項

☐ 第3期基本計画前期実施計画重点事業	☐ 19節で予算措置している補助金が含まれる事業
--	---